

## 第1学年 国語科学習指導案

は組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 石川 雅仁

### 1 単元 たのしく よもう (教材「はなのみち」光村1年上)

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、教材「おはなしよんで」等の学習で、挿絵を手掛かりにして読み物等を楽しみながら、場面の様子を想像する能力や、興味をもって読み物を読もうとする態度を身に付けつつある。また、自分が想像したことを伝えたり、もう少し長い読み物を読んだりしてみたいという願いをもっている。

そこでここでは、挿絵と叙述とを対応させて、場面の様子等について想像を広げながら読む能力を身に付けさせたい。また、やさしい読み物に興味をもって楽しみながら読む態度を身に付けさせたいと考え、本単元「たのしくよもう」(教材「はなのみち」)を設定した。

この学習は、内容や文章のリズムに注意して音読し、場面の様子について想像を広げながら読む単元「こえをだして、たのしくよもう」(教材「おむすびころりん」)へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

教材「はなのみち」は、くまさんが袋の中身をなくしてしまうものの、実は袋の中身が花の種であり、それがくまさんが歩いた後に落ちて、春になり花の一本道ができるというという童話である。話の最後で袋に入っていたものが分かり、失敗したと思ったことが好結果を生んだという展開の面白さが味わえる。また、本教材は、くまさんの言動を中心に4場面構成されており、それぞれの場面に簡単な主述のある文と親しみやすい挿絵が添えられている。文と挿絵を対応させたり、挿絵と挿絵を比較させたりすることで、想像を広げながら読むことができる教材である。

そこで本単元では、場面の様子等について想像を広げさせるために、動物たちの表情や様子を手掛かりに会話や気持ちを考えさせ、本文にその言葉を書き加えながら読み進めさせるようにする。

また、想像したことや感想を伝える楽しさを味わわせるために、自分なりの思いや考えを加えさせる紙芝居作りを単元を貫く言語活動として設定する。

具体的にはまず、教師自作の紙芝居の鑑賞を導入段階で行い、教材文通りに読むよりも想像を広げたり感想を盛り込んだりして読んだ方が楽しいことに気付かせ、自分なりの紙芝居を作ることへの興味・関心を高める。また、終末段階で自作の紙芝居を友達同士で発表し合うことを確認することで、教材文を使った学習の必要感を高める。

次に、各場面の紙芝居作りを進めながら、挿絵の中に出てくるものや色から気付いたことと叙述を対応させて、野原などの場面や動物たちの様子について想像を広げながら詳細を読み味わっていく。その際、自分の思いや考えを強固・付加・修正して物語を読む楽しさを味わわせるために、子どもたち同士の話合いの場面を積極的に設定し、伝え合う過程で自分の考えを深められるようにし、お互いの紙芝居のよさを見付けさせる。

終末では、まとめたものを友達同士で発表し合い、意見交換を行わせ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせるとともに、子どもが身に付けた考え方の価値を実感させる。

なお、これらの学習を通して得られる能力や態度は、挿絵や叙述、自分がもった感想から想像を広げて読んだり、それを伝え合ったりして学び合うよさや楽しさを味わう能力や、学んだ「国語の能力」を実生活で生かしていこうとする態度へと結び付いていくと考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

①初発の感想		
好きな場面	理由	
場面1 (3)	いろいろなものがある (1), 中身が楽しみ (1), 挿絵がかわいい (1)	
場面2 (1)	種が落ちている (1)	
場面3 (3)	くまがびっくりした (2), 挿絵がかわいい (1)	
場面4 (28)	花がたくさん咲いている (13), 色がきれい (5), みんなうれしそう (2), 春になった (2), たくさん動物がいる (6)	
②内容把握		
ア 袋の中身	花(18), 花の種(10), おもちゃ(2), 葉っぱ(1), 石(1), 無回答(3)	
イ 花の道ができた理由 ※複数回答	熊が落としたものが原因(28), 春の到来 (4), みんなで植えた(2), 風が吹いた(1), 穴を掘った(1), 無回答(3)	
ウ 動物の言葉の想像	主題をとらえた回答(13), 主題をとらえていない回答(18), 無回答(4)	
③音読の実態		
○音読 (字が読める)		
・すらすらできる(26) ・ゆっくりできる(9) ・できない(0)		
○語のまとまりに気を付けた音読		
・語のまとまりに気を付けて読める (31) ・語のまとまりに気を付けてゆっくり読める(5)		
④ひとみ学習について		
	ひとりで	ともだちと, みんなで
興味	(2)	(33)
実際の活動	(12)	(23)

多くの子どもたちは、場面4を好きな場面として挙げている。(①) それは、子どもたちは、花が咲いて動物たちが喜んで様子から場面の明るい雰囲気をとらえているからであると考えられる。しかし、花の一本道ができたのは、くまが種を落としたからだという理由を考えながら読むことのできている子どもは多くなかった。(②アイ) それは、これまで理由を考えながら読み物を読んだ経験が少ないからだと考えられる。また、動物たちがかわす挨拶等を考えることができるが、季節の変化や動物たちの行動から考えた場面の様子などを自分のことばで表現できる子どもは多くない。(②ウ) それは、叙述や挿絵を手がかりに、場面の様子を想像しながら読み物を読んだ経験が少ないからだと考えられる。語のまとまりに気を付けてすらすら読めない子どもがいる。(③) 学習の進め方については、集団で学ぶことに興味はあるが、実際には個での学びに終始しがちな子どもが多い。集団での学びの意義を理解しているものの、よさを十分感じていないと考えられる。(④)

### (4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちに叙述と挿絵とを関連付けて想像を広げさせ、自分の思いや考えを、**友達同士でそれらを比較・関係付けする交流を通して、強固・付加・修正させる**ために、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切である。

ア くまさんが見付けた袋には穴が開いていて中の種がなくなってしまう、春になって花の一本道ができ、くまさんたちにとってうれしい結果となるというストーリー展開の面白さに気付かせるために、各場面の挿絵と叙述を並べて提示して場面の様子について考えさせ、想像を広げて読めるようにする。

イ 場面の様子について想像を広げて読ませるために、挿絵と叙述とを対応させて場面や人物の様子について想像したことを、動物たちが言っている言葉として付け加える紙芝居を作る活動を行わせる。その際、叙述と挿絵の色、登場する動物たちの様子から、季節の変化や動物たちの行動、場面の状況を友達同士で比較させて、各場面の様子について想像したことを自分の言葉で本文に加えながら、読み進めるようにする。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習の有用感を味わわせるために、自ら作成した紙芝居を友達同士で交流させ、この学習で身に付けたことを今後の自分の読書生活へ生かせるように話し合わせる。

### 3 目標

- (1) 場面の様子に関心をもち、どんな動物の言葉が場面の様子を表しているのかを考えて進んで読むことができる。
- (2) 野原や登場する動物の様子に着目しながら各場面の挿絵を比較して、場面の様子の変化をとらえることができる。
- (3) 挿絵と叙述とを対応させて、場面の様子や動物たちの様子について想像を広げながら、紙芝居に付け加えたり、楽しく読んだりすることができる。

### 4 指導計画（全8時間）

	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	<p>どんなお話かな。早く知りたいな。</p> <p>紙芝居を読みたいな。</p> <p>どうすれば、もっとたのしい紙芝居になるのかな。</p> <p>色をぬるときには、様子を考えるといいな。</p>	<p><b>1 学習意欲の喚起</b></p> <p><b>(1) 教材との出会い</b> 「どんな おはなしなのかな。」 ・ 教材文に対する初発の感想 ・ 物語の概要把握 (登場人物, 場面, あらすじなどの確認)</p> <p><b>(2) 試行(試し作り)</b> 「たのしく よんでみよう。」 ・ 紙芝居づくり試行(試し作り)</p> <p><b>(3) 課題解決の見通し</b> ・ 学習計画の立案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材への興味・関心を高めさせるために、子どもに問いかけたり、感想を聞いたりして、あらすじや登場人物などを確認する。</li> <li>○ 想像しながら読む楽しさを感じさせるために、教材文のとおりを読んだものと、想像を膨らませて会話文を付け足したものとを讀んだり聞かせたりして比較させ、印象の違いを話し合わせる。</li> <li>○ 子どもが想像して発言したことを、「～が、～ました。」の文型に整えて板書し、紙芝居作りの見通しをもたせる。</li> <li>○ 動物たちの様子や場面の雰囲気をとらえさせるために、挿絵と叙述を関連付けて想像させる。 (例)・ ストーブ等季節を感じさせるものに着目させる。 ・ 落ちた種がくねくね道を作っていることから、くまさんの様子を想像させる。</li> <li>○ くまさんの気持ちを想像させるために、声量に注意して音読させたり、行動と関連付けた会話文を考えさせたりする。</li> <li>○ 春になって花の一本道ができたことを理解させるために、挿絵同士の比較による季節の変化についての気付きと「あたたかいかな」や「ながいながい」などの言葉とを関係付けさせる。</li> <li>○ 場面の様子をとらえさせるために、友達同士で付け加えた会話文の交流をさせ、その根拠同士を比較させて自分の考えを深めさせたり広げさせたりする。</li> <li>○ 場面の様子と比較したり、季節の変化をとらえたりしながら想像して読むことの楽しさを振り返らせるために、なぜ言葉を加えられたのかを考えさせる。</li> <li>○ 本単元の学習を価値付け、今後の学習に生かすために、日常生活や他教科等の活用できそうな場面を話し合わせ、できるものについては実際に活用させる。</li> </ul>
	<p>絵を見て、動物がどんなことを言っているか付け足すと楽しい紙芝居になるな。</p> <p>学んだことを生かして、もっと楽しい紙芝居にするぞ</p> <p>学んだことを生かせば、楽しい紙芝居が作れることが分かったぞ</p>	<p>たのしい かみしばいにするには、どんなことが たいせつ なのだろうか。</p> <p><b>2～5 限定された範囲での試行錯誤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材文の読み取りと紙芝居づくり(本時) 「たのしい かみしばいをつくるには、どんなことが たいせつなのかな。」 ・ 叙述の視写 ・ 挿絵の着色 ・ 登場人物の会話の想像</li> </ul> <p><b>6 広い範囲での試行錯誤</b> 「じぶんなりの たのしい かみしばいをつくるぞ。」 ・ 自分なりの紙芝居の作成 ・ 紙芝居の交流</p>	
しらべる・ふかめる⑤	<p>学んだことを生かせば、楽しい紙芝居が作れることが分かったぞ</p> <p>これから絵本を読むときには、学んだことを生かしていきたいな。</p>	<p><b>7 試行(試し作り)の見直し</b> 「つくった かみしばいを みなおすぞ。」 ・ 試行と完成した紙芝居との比較 ・ 学習の振り返り</p> <p>じぶんで どうぶつが はなしたことを かんがえてつけたすと たのしいかみしばいになる。</p>	
	<p>学んだことが生かせるぞ。学習してよかったな。国語って楽しいな。</p>	<p><b>8 活用場面の想起</b> 「まなんだことを どのように いかせるかな」 ・ 想像を膨らませる読み方の活用について</p>	
ふりかえる・いかす②			

5 本時 (5 / 8)

(1) 目標

「あたたかいかな」という季節を表す言葉や、花の一本道ができて喜ぶ登場人物の様子が描かれた挿絵に着目して、春になった様子や動物たちの喜ぶ様子について想像を広げて、紙芝居を作ることができる。

(2) 本時の展開に当たって

春になったことに気付かせるために、「あたたかいかな」という叙述や他の場面との色遣い・動物の数・動きの違いなどを挿絵から考えさせ、花が咲いた理由に気付かせるために、「いっぼんみち」という叙述や袋の中身について考えさせ、その考えを友達と互いに比較させる。さらに、話し合いを通してこれらに関係付けて整理させることで、動物たちのうれしい気持ちに気付かせ、自分の考えを強固・付加・修正できるようにする。終末段階では、身に付ける考え方を発揮することができた子どもを称賛・価値付け、学び合うことのよさについて気付かせる。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習場面を音読し、学習のめあてを確認する。 はなの いっぼんみちが できたとき、どうぶつたちは どんな はなしを しているのかな。	(分) 5	○ 課題意識をもたせるために、これまでの場面の挿絵と比べさせながら場面4の挿絵を提示し、大まかに場面の様子をとらえさせる。 ○ 学習の見通しをもたせるために、前時までの進め方を想起させる。
	2 学習の進め方を確かめる。 3 動物たちの会話を想像する。 (1) 書き方のモデルを基に、動物が話していることを想像して書く。 くまさんが言いました。「お花がきれいだね。」 (2) 書いたことを交流し合う。	30	○ 動物たちが喜んで様子をとらえさせるために、自分が選んだ動物の動きに着目させて挿絵と同じ動きをさせたり、動物を自分に置き換えて考えさせたりして、その動物が言った言葉を想像させる。 ○ 場面の様子について想像を広げさせるために、子どもが考えた動物の言葉を紙芝居に付け加えさせ、その言葉と理由を踏まえて交流させる。
しらべる・ふかめる	りすさんが言いました。「くまさんのおかげで、きれいな花が咲いたね。やったね。」 くまさんが言いました。「袋の中には、花の種が入っていたんだね。お花が咲いて、よかったよ。」 花が咲いた理由 かえるさんが言いました。「暖かくなって、オタマジャクジも喜んでいたよ。」 うさぎさんが言いました。「お花の首飾りを作ったよ。うれしいな。」 春への気付き 動物たちはみんな喜んでるね。どうしてかな。		○ 春になった様子をとらえさせるために、「あたたかい かなが ふきはじめました。」や「ながいながい」、「いっぼんみち」の叙述に着目させたり、場面2と4の挿絵の色遣いや動物の数や動きの違いを比較させたりする。 ○ 春になったことと花の一本道ができたことを、動物たちが喜んでることに結び付けさせるために、話し合いを通して、友達の考えやその理由の共通点に関係付けさせ、板書で構造的に整理する。
ふりかえる・いかす	動物たちはどうして喜んでるのかな。 【叙述から】 ・「あたたかいかな」 ・「はなのいっぼんみち」 【挿絵から】 ・動物たちの動きや表情 ・野原の様子 春になって、花の一本道ができたから、動物たちは喜んでるんだね。	10	○ 春になったことと花の一本道ができたことを、動物たちが喜んでることに結び付けさせるために、話し合いを通して、友達の考えやその理由の共通点に関係付けさせ、板書で構造的に整理する。
	4 本時のまとめをする。 くまさんが言いました。「春になったから、僕がまいた種がお花になって、みんな喜んでくれたよ。うれしいな。」 「はるがきて、はなの いっぼんみちが できて、みんなは うれしいね。」		○ 学びの結果自分の考えが変容したことに気付かせるために、強固・付加・修正した箇所を考えさせ、その理由を明らかにさせる。 ○ 学び合いのよさに気付かせるために、友達との交流活動を通してさらに想像を広げて読めたことや、その理由を比較・関係付けられたことを、発表を通して価値付ける。